

特別国民体育大会（鹿児島県）における 記念切手（日本郵便ふるさと切手）の発行について

1. 発行概要

- 名 称：ふるさと切手「特別国民体育大会」
- 発行日：2023年9月6日（水）
- 種 類：84円郵便切手
- シート構成：参考（第77回国民体育大会）

2. 都道府県体育・スポーツ協会、中央競技団体に対するお願い

- 国体記念切手売り上げ増に向けた取り組みへのご協力
加盟団体に対するアナウンス、郵便送付時のご利用 等



特別国民体育大会(鹿児島県)の各競技会場におけるイベント事業について

令和5年5月23日現在

競技名	種目名	実施内容	実施日時	実施会場	参加者・対象者
1	テニス	「TENNIS PLAY&STAY」 テニスに触れ合う機会をつくり楽しさを体験	10月7日(土) 10:00開始	鹿児島市 東開庭球場	小学生(6歳～11歳) テニス未経験者 約30名
2	ローイング	レースの実況・解説 WEB配信やビジョンカー放映	9月21日(木)～9月24日(日)	輝北ダム特設ローイングコース内	1日1000人(選手、監督、視察員、報道員、一般観覧者)
3	ホッケー	試合中におけるルールを中心にした解説とホッケー競技の 歴史や世界におけるホッケー競技の状況などを説明	10月8日(日)～10月12日(木) 5日間 1日1試合程度で基本的に地元鹿児島県チームの試合	・樋脇屋外人工芝ホッケー場 ・丸山自然公園ホッケー場	約500名(ホッケー競技観戦者)
4	体操 新体操	男子新体操選手によるエキシビション	9月23日(土) 体操競技成年表彰式前(16:30～17:10)	鹿児島アリーナ	・演技者6～9名(団体6～7名、個人2～3名) ・監督1名 ・解説者1名
		2023全国ブロック代表新体操男子団体選手権大会	大会競技として実施 9月24日(日): 準備、公式練習 9月25日(月): 開始式、競技、表彰式	鹿児島アリーナ	11チーム 88名参加 (1チーム当たり選手5名・補欠2名・監督1名) ①(公財)日本体操協会に本年度登録を完了した者。 ②年齢は2005年4月2日から2009年4月1日までに生まれたもの。(中学3年生を含む) ③監督については、引率者として認められた者。
5	バスケットボール	出演団体によるダンス披露	10月15日(日) 少年女子 準決勝 第2試合目 ハーフタイム(第2Qと第3Qの間) 10分間	いちき串木野市総合体育館	約30名(小学校1年生～高校2年生)
6	セーリング	レースの観戦、実況放映及び解説	10月8日(日)～10月11日(水) レースが実施される時間帯	鹿児島市平川特設セーリング会場	約1,000名(選手、役員、視察者、選手家族、一般観戦者)
7	ウエイトリフティング	ウエイトリフティング競技の紹介動画や国際競技大会の日本代表 選手及び世界のトップリフターの試技の動画を上映	10月12日(木)～10月16日(月) 1日約5～6回	薩摩川内市入来総合運動公園体育館	観戦者約2,000名
8	軟式野球	キャッチボールクラシック (キャッチボールを行い、正確さとスピードを競うゲーム)	10月15日(日) 13:00	鴨池市民球場	鹿児島県軟式野球連盟 登録 学童チーム 約20チーム(約200名)
9	相撲	相撲体操の講習会	10月11日(水)	奄美市内小学校	小学生 約50～60名
10	馬術	①引馬体験コーナーによるふれあいイベント ②馬術競技観戦者に対する感染ミニガイドの無料配布 ③放送委員による競技のわかりやすい解説・実況	10月11日(水)～10月15日(日)	霧島市牧園特設馬術競技場	馬術競技観戦者
11	柔道	東京オリンピック出場選手(男女各2名)による得意技の披露、 オリンピック選手と地元柔道 少年(小学生)との練習会、 トークイベント	10月15日(日) 11時15分(少年男子決勝戦終了後)～11時45分	鹿児島アリーナ	・地元小学生(男女各8名計16名) ・約1,500名(役員、補助員を含む会場内観覧者)
12	ソフトボール	・投手のピッチング方法の指導 ・ノック形式による打球処理(キャッチング、送球など)の指導 ・外野手のボール捕球の指導 ・バッティングの指導	10月8日(日) 競技会終了後	南九州市知覧平和運動公園多目的球場	100人(小学生・中学生・高校生)
13	弓道	弓道体験コーナー	10月13日(金) 9:30～16:00 10月14日(土) 9:30～16:00 10月15日(日) 9:30～15:00 10月16日(月) 9:30～12:00	弓道競技会場おもてなし広場	観戦者約500名(4日間通算)
14	ライフル射撃	①ビームライフル、ビームピストル体験射撃 ②ビームピストル体験射撃	①10月9日(月) 17:00～18:00 ②10月8日(日)～10月10日(火) 9:00～15:00	①ハートピアかごしま ②鹿児島県警察学校 講堂	①約50名(小中学生、一般(高校生以上)を対象とし、先着順とする) ②約50名×3日間(小中学生、一般(高校生以上)を対象とする)
15	カヌー	①レジェンドカップ(往年の各選手によるスラロームレース) ②地元カヌークラブ員等によるタイムトライアル	①②10月15日(日) スラローム15ゲート競技会終了後	①②湧水町轟の瀬特設カヌー競技会場	①往年の名選手等 10名 ②湧水カヌークラブ員等 7名
16	アーチェリー	競技・弓具の説明と実射体験	10月15日(日) 10:00～11:30、13:00～14:30	鹿児島ふれあいスポーツランド運動広場前	小学3年生以上 30名(1日間)
17	空手道	①鹿児島実業高校新体操部による公開演武 ②劉衛流成年男子団体形の公開演武	①10月8日(日) 12:30～12:40 ②10月9日(月) 12:30～12:40	薩摩川内市総合運動公園総合体育館 (サンアリーナせんだい)	①鹿児島実業高校新体操部生徒 6名 ②劉衛流成年男子3名
18	なぎなた	・変身コーナー(稽古着、袴に着替えて写真を撮す) ・リーフレット配布(なぎなたの簡単な説明) ・なぎなたの体験(なぎなたを実際に持って振る) ・連盟よりプレゼント(写真・応援メッセージ)	10月15日(日)	枕崎市立総合体育館	会場の応援者、見学者(大人、子ども、男性、女性)
19	ボウリング	「市民ふれあいボウリング」 ・全日本ナショナルチームメンバー及び地元鹿児島県代表選手の 選手紹介や模範投球 ・参加者の方々へ実技指導を行いながら共に2ゲームプレー	10月6日(金) 18:00～20:00	サンライトゾーン	約26～39名 (鹿児島 市内に在住・在勤・在学している方)

特別国民体育大会(鹿児島県)実施競技における トップアスリート特例対象選手一覧

令和5年6月26日現在

No.	競技名	対象区分				特別大会 対象者数	特別大会実施要項 参加人員(参考)	第77回大会 対象者数
		①	②	③	④			
1	陸上競技	○	○	○	○	328 名	1,457 名以内	314 名
2	水泳	○	○	○	○	200 名	1,869 名以内	210 名
3	サッカー	【対象者なし】				—	920 名	—
4	テニス	○	○	○	○	40 名	410 名	43 名
5	ローイング	○	○			33 名	896 名	24 名
6	ホッケー	【対象者なし】				—	560 名	—
7	ボクシング	○	○			19 名	343 名	17 名
8	バレーボール	○	○		○	77 名	1,322 名	80 名
9	体操	○	○	○	○	27 名	725 名	24 名
10	バスケットボール	○	○			25 名	1,024 名	42 名
11	レスリング	【対象者なし】				—	799 名	—
12	セーリング	○	○		○	33 名	703 名	26 名
13	ウエイトリフティング		○		○	21 名	411 名	19 名
14	ハンドボール	【対象者なし】				—	910 名	—
15	自転車	○	○		○	29 名	658 名	28 名
16	ソフトテニス				○	34 名	648 名	32 名
17	卓球	○	○		○	18 名	460 名	15 名
18	軟式野球	【対象者なし】				—	512 名	—
19	相撲	【対象者なし】				—	470 名	—
20	馬術	【対象者なし】				—	339 名	—
21	フェンシング	○	○	○	○	38 名	339 名	49 名
22	柔道				○	126 名	522 名	141 名
23	ソフトボール				○	28 名	715 名	20 名
24	バドミントン	○	○	○	○	66 名	444 名	64 名
25	弓道	【対象者なし】				—	314 名	—
26	ライフル射撃	○	○			31 名	428 名	38 名
27	剣道	【対象者なし】				—	475 名	—
28	ラグビーフットボール	【対象者なし】				—	712 名	—
29	スポーツクライミング	○	○		○	61 名	309 名	52 名
30	カヌー	○	○	○	○	75 名	453 名	63 名
31	アーチェリー	○	○		○	16 名	280 名	13 名
32	空手道	○			○	67 名	414 名以内	68 名
33	銃剣道	【対象者なし】				—	193 名	—
34	なぎなた	【対象者なし】				—	314 名	—
35	ボウリング				○	47 名	401 名	29 名
36	ゴルフ			○	○	20 名	441 名	20 名
37	トライアスロン				○	6 名	282 名	7 名
		対象者総計				1,465 名	22,472 名	1,438 名

対象区分:①東京オリンピック競技大会参加者、②JOCオリンピック強化指定選手
③国内ランキング上位者、④中央競技団体強化指定選手

トップアスリーの国民体育大会参加資格の特例措置

我が国の競技力向上を支援する観点より、一定の競技力を有する選手に対して、「トップアスリーの国民体育大会参加資格の特例措置（以下「本特例」という。）」を下記のとおり定める。

1. 特例の対象となる選手

本特例の対象となる選手は、下記の条件のいずれかを満たす者とする。

- 1) 大会開催の直前に開催されたオリンピック競技大会（冬季競技はオリンピック冬季競技大会）に参加した者。
- 2) 大会開催年の4月30日（冬季大会は前年10月31日）時点で、下記のいずれかに該当し、各中央競技団体が本特例の対象として認めた者。
 - (1) JOC オリンピック強化指定選手
 - (2) 各競技（種目）における国内ランキング上位10位以内の者
 - (3) 中央競技団体が定めた強化指定選手

※ 強化指定ランクについては、各競技における全日本選手権大会入賞レベル以上のカテゴリーを対象とする。

2. 特例の内容

1) 予選会の免除

本特例の対象となる選手については、都道府県予選会及びブロック大会を経ずに国民体育大会本大会に参加することができるものとする。ただし、ブロック大会実施競技種目・種別においては、当該都道府県代表選手又はチームがブロック大会に参加し、本大会参加枠を獲得している場合とする。

2) 資格要件（日数要件の緩和）

本特例の対象となる選手が所属都道府県として「居住地を示す現住所」又は「勤務地」を選択する場合は、日数に関する要件を定めないこととし、以下のとおりとする。

(1) 居住地を示す現住所

次の要件をいずれも満たすものとする。

- ① 当該大会開催年の4月30日以前（冬季大会はこの前年同日）から大会終了時まで引き続き、住民票記載の住所に存する都道府県において生活している実態があり、当該都道府県以外（海外を含む）において生活している実態がないこと。

なお、生活の実態については、下記要件により判断する。

1. 自ら所有する住居、又は自らの名義で住居を賃借していること
2. 当該住居に生計を一にする家族と共に住んでいること
3. 当該住居の水道光熱費など費用を自ら負担していること
4. 当該住居に主要な家財道具が存すること

- ② 合宿、試合等により当該都道府県外で活動を行う場合、当該都道府県を移動の起点としていること。

(2) 勤務地

次の要件をいずれも満たすものとする。

- ① 当該大会開催年の4月30日以前（冬季大会はこの前年同日）から大会終了時まで引き続き、雇用主と雇用契約を締結した上で、当該都道府県内に存する雇用主の会社や事業所等に現実に通勤し、勤務していること。
- ② 当該都道府県内で、競技普及活動等の事業に参加すること。

3. 国内移動選手の制限

本特例の対象となる選手の国内移動選手の制限については、国民体育大会開催基準要項細則第3項-(1)-(1)-③の通りとする。

4. 特例の適用に係る手続き

- 1) 正式競技実施中央競技団体は、当該大会開催年の4月30日（冬季大会は前年10月31日）現在における「1. 特例の対象となる選手」の氏名等を別に定める様式により、公益財団法人日本スポーツ協会宛に提出する。
- 2) 公益財団法人日本スポーツ協会は、「国民体育大会参加申込システム」内にて、特例対象選手一覧を公表する。
- 3) 参加都道府県体育(スポーツ)協会は本特例活用者を別に定める様式により、当該大会実施要項で定めた参加申込み締切り期日までに、公益財団法人日本スポーツ協会宛に提出する。

5. その他

本特例に定めのない事項については、必要に応じ国民体育大会委員会において協議するものとする。

附則

本特例は、平成23年12月15日に制定し、第67回本大会より施行する。

本特例は、平成26年5月15日に改定し、第69回本大会より施行する。

本特例は、平成29年6月16日に改定し、第73回より施行する。

本特例は、平成30年4月1日に改定し、同日より施行する。

特別国民体育大会(鹿児島県)における予選会免除対象大会

令和5年6月6日現在

◆ 第19回アジア競技大会(中国／杭州市)

【免除対象競技】 19競技

陸上、水泳、テニス、ローイング、ボクシング、バレーボール、バスケットボール、セーリング、ウエイトリフティング、自転車、卓球、フェンシング、柔道、ソフトボール、バドミントン、ライフル射撃、スポーツクライミング、アーチェリー、空手道

◆ 2021FISUワールドユニバーシティゲームズ(中国／成都)

【免除対象競技】 12競技

陸上、水泳、テニス、ローイング、バレーボール、体操、バスケットボール(5×5男子・5×5女子)、卓球、フェンシング、柔道、ライフル射撃、アーチェリー

◆ 各中央競技団体が指定する世界選手権大会等の国際大会

競技名	対象大会	
	No.	大会名
1 陸上競技	1	ヌルスルタン 2023 アジア室内陸上競技選手権大会
	2	バザースト 2023 世界クロスカントリー選手権大会
	3	中国広州世界リレー2023
	4	韓国醴泉U20アジア陸上競技選手権大会
	5	パタヤ2023アジア陸上競技選手権大会
	6	ブダベスト2023世界陸上競技選手権大会
	※1 7	アジアリレー2023
2 水泳	8	世界選手権(福岡) 競泳
	9	世界ジュニア選手権 競泳
	10	世界選手権(福岡) 飛込
	11	世界選手権(福岡) OWS
3 テニス	12	ジュニアデビスカップ アジア／オセアニア予選
	13	ジュニアビリージーンキングカップ アジア／オセアニア予選
	14	全仏オープン
	15	ウィンブルドン選手権
4 ローイング	16	ワールドカップ I
	17	ワールドカップ II
	18	ワールドカップ III
	19	U23/U19世界選手権
	20	世界選手権
5 ボクシング	21	IBA MEN'S WORLD BOXING CHAMPIONSHIPS 2023 2023IBA世界男子ボクシング選手権大会
	22	ASBC ASIAN CLUB ELITE Men's&Women's Boxing Championships
	23	ASBC ASIAN Youth&Junior Boxing Championships
6 バレーボール	24	FIVBネーションズリーグ(男子・女子)
	25	FIVBネーションズリーグファイナル(男子・女子)
	26	男子U19世界選手権
	27	女子U19世界選手権
	28	女子U21世界選手権
	29	第1回アジア男子U16選手権大会
	30	第1回アジア女子U16選手権大会
	31	アジア男子クラブ選手権大会
	32	アジア女子クラブ選手権大会
	33	アジア選手権(男子・女子)
7 バスケットボール	34	International Window for Men's Basketball(5x5男子)
	35	FIBA U19 Basketball World Cup(5x5男子)
	36	FIBA Basketball World Cup(5x5男子)
	37	FIBA U19 Women's Basketball World Cup(5x5女子)
	38	FIBA Women's Asia Cup(5x5女子)
	39	FIBA3x3 アジアカップ(3x3男子)
	40	FIBA3x3 ワールドカップ(3x3男子)
	41	FIBA3x3 U18ワールドカップ(3x3男子)
	42	FIBA3x3 U23ワールドカップ(3x3男子)
	43	FIBA3x3 アジアカップ(3x3女子)
	44	FIBA3x3 ワールドカップ(3x3女子)
	45	FIBA3x3 U18ワールドカップ(3x3女子)
	46	FIBA3x3 U23ワールドカップ(3x3女子)

◆ 各中央競技団体が指定する世界選手権大会等の国際大会

競技名	対象大会	
	No.	大会名
8 セーリング	47	プリンセスソフィア杯
	48	French Olympic Week Hyeres 2023
	49	470 European Championship Hyeres
	50	Paris 2024 Test Event
	51	The Hague Sailing World Championship
9 ウェイトリフティング	52	2023アジア選手権大会
	53	2023IWFワールドグランプリ大会
10 自転車	54	アジア自転車競技選手権大会(ロード)
	55	アジア自転車競技選手権大会(トラック)
	56	UCI世界選手権大会(ロード・トラック)
11 卓球	57	世界選手権大会(個人戦)
	58	世界ユース選手権大会(旧:世界ジュニア選手権大会)
	59	アジア選手権大会
	60	アジアジュニア選手権大会
12 フェンシング	61	世界選手権大会(イタリア)
	62	アジア選手権大会(中国)
13 柔道	63	ドーハ2023年世界柔道選手権大会(カタール)
	64	ザグレブ2023年世界カデ柔道選手権大会(クロアチア)
14 ソフトボール	65	第17回WBSC女子ソフトボールワールドカップ・グループステージ
15 バドミントン	66	第28回世界バドミントン選手権大会
	67	アジア選手権大会
	68	アジアジュニア選手権大会
	69	スディルマンカップ
16 ライフル射撃	70	ISSFワールドカップ・パーク大会
	71	世界選手権大会
17 スポーツクライミング	72	IFSCクライミング世界選手権ベルン2023
	73	IFSCクライミングワールドカップ2023
	74	IFSCクライミングユース世界選手権ソウル2023
	75	IFSC-ACクライミングアジアユース選手権
18 カヌー	76	2023ICFカヌースプリントワールドカップ第1戦・第2戦
	77	カヌースラロームワールドカップ第1戦～第3戦
	78	2023ICFカヌースプリントジュニアU23世界選手権大会
	79	カヌースラロームジュニアU23世界選手権大会
19 アーチェリー	80	2023年アーチェリー世界選手権大会
	81	2023年アーチェリーアジア選手権大会
	82	2023年ワールドカップ第1戦
	83	2023年ワールドカップ第2戦
	84	2023年ワールドカップ第3戦
	85	2023年ワールドカップ第4戦
	86	2021FISUワールドユニバーシティゲームズ
	87	2023年世界ユース選手権大会
20 空手道	88	アジア空手道選手権大会
21 ボウリング	89	21th Asian Youth Tenpin Bowling Championships
	90	22th Asian Junior Tenpin Bowling Championships

※1 当該大会の会期が未定であることから、会期が国体本大会と重複しないことが確認でき次第、予選会免除対象大会として正式決定することを提案。

※ 国民スポーツ大会委員会後に候補大会の追加や変更が生じた場合は委員長に一任することを提案。

第 7 8 回国民スポーツ大会冬季大会

スケート競技会・アイスホッケー競技会

テーマ・スローガン・シンボルマーク・大会マスコットについて

テーマ

新たな光へ！とまこまい国スポ 2024

作品の説明

大会で勝利するという光もありますが、それ以外にも友情や技術力などいろいろな光があると考えていますし、この国民スポーツ大会で勝利する以外に得られる光も「新たな光」としてとらえることができるので、個人個人のまだ見ぬ光、「新たな光」に向かおうという思いを込めこのテーマにしました。

作者

駒澤大学附属苫小牧高等学校 美術部 中島 麟さん（3 年生）

スローガン

可能性を自信に

～飛び立て未来の選手たち～

作品の説明

スケートという言葉で削り、全国大会で自分たちの力を知る権利を得た選手たちが、いざ戦いに挑むとき、「自分の力を信じて、勇気をもって立ち向かってほしい」という全国民のエールが届いてほしいという意味を込めました。

作者

北海道苫小牧西高等学校 生徒会執行部 山口 菜月さん（3 年生）

シンボルマーク



作品の説明

今回、大会の種目がアイスホッケーとスケートということで、この2つを連想させるデザインを心掛けました。氷の青の感じと、情熱の赤の感じ、スピード感を表現しました。また、丸の中を国スポのマークにして、アイスホッケーのパックに見せることで、マークとデザインを一体化させました。色もビビッドカラーにすることで人々の目に留まりやすく、パッと頭の中に入るようなデザインにできたと思います。

作者

駒澤大学附属苫小牧高等学校 美術部 中島 麟さん（3年生）

大会マスコット

苫小牧市公式キャラクター「とまチョップ」



国民体育大会冬季大会の開催実績及び今後の開催予定

◆平成12年(第55回大会)以降の冬季大会開催都道府県

2023/6/6

大会		冬季大会		
年	回	スキー	スケート	アイスホッケー
2000(H12)	55	富山★	青森	
2001(H13)	56	長野	山梨	
2002(H14)	57	新潟	北海道	
2003(H15)	58	北海道	群馬	
2004(H16)	59	山形	青森	
2005(H17)	60	岩手	山梨	東京
2006(H18)	61	群馬	北海道	
2007(H19)	62	秋田★	群馬	
2008(H20)	63	長野		
2009(H21)	64	新潟★	青森	
2010(H22)	65	北海道		
2011(H23)	66	秋田	青森	
2012(H24)	67	岐阜★	(ス)岐阜★ (シ・フ)愛知	愛知
2013(H25)	68	秋田	東京★(ス福島)	
2014(H26)	69	山形	栃木	
2015(H27)	70	群馬		
2016(H28)	71	岩手★		
2017(H29)	72	長野		
2018(H30)	73	新潟	山梨	神奈川
2019(H31/R1)	74	北海道		
2020(R2)	75	富山	青森	
2021(R3)	76	秋田 ※中止	ス・岐阜 シ・フ・愛知	愛知
2022(R4)	77	秋田	栃木	
2023(R5)	特別	岩手	青森	
国民スポーツ大会				
2024(R6)	78	山形	北海道	
2025(R7)	79	秋田	ス・群馬県 シ・フ・岡山県	岡山県
2026(R8)	80	青森★ (内定)		
2027(R9)	81	(未定)		
2028(R10)	82	長野★ (開催申請書提出順序了解県)		
2029(R11)	83	(未定)		
2030(R12)	84	(未定)		
2031(R13)	85	(未定)		
2032(R14)	86	(未定)		
2033(R15)	87	(未定)		
2034(R16)	88	(未定)		

【注】① ★印の都道府県は、国体本大会(夏秋季大会)と冬季大会を併せて開催。

② スケート競技会の(ス)はスピード種目を、(シ)はショートトラック種目を、(フ)はフィギュアスケート種目を表す。

冬季大会開催県へのJSPO交付金

～特別大会	スキー	スケート (スピード/フィギュア/ ショートトラック)	アイス ホッケー	合計
交付金	1,000万円	1,000万円	1,000万円	3,000万円

第78回大会～	スキー	スケート (スピード/フィギュア/ ショートトラック)	アイス ホッケー	合計
交付金	2,500万円	2,000万円	1,500万円	6,000万円

【参考】※令和4年12月9日 令和4年度第3回国民体育大会委員会にて決議

種別	大会	参加負担金 (～R5年特別大会)	参加負担金 (R6年第78回大会～)
少年種別	本大会	2,000円	3,000円
	冬季大会		4,000円
成年種別他	本大会	4,000円	6,000円
	冬季大会		8,000円

2023 年 4 月 25 日

**JSPO**
Japan Sport Association

Press Release

6団体共同で「NO！スポハラ」活動を開始

～だれもが安全・安心にスポーツを楽しめる社会を目指して～

スポーツを「する」「みる」「ささえる」ための環境づくりを行う JSPO(正式名称:公益財団法人日本スポーツ協会 東京都新宿区/会長 伊藤雅俊)は、スポーツ界における暴力・暴言、ハラスメント等の不適切行為をなくすことを目指し、本日、令和 5(2023)年 4 月 25 日(火)から、「NO！スポハラ」活動を開始します。



ハッシュタグは「 #no スポハラ 」

平成 25(2013)年に「スポーツ界における暴力行為根絶宣言」(以下「根絶宣言」という。)を行って以降、相談窓口の設置や指導者向けの啓発など各種活動が続け 10 年が経過しましたが、いまだスポーツにおける暴力、暴言、ハラスメント等の不適切行為がなくなるまでには至っていません。

当協会および日本オリンピック委員会(JOC)、日本パラスポーツ協会(JPSA)、日本中学校体育連盟、全国高等学校体育連盟、大学スポーツ協会(UNIVAS)の 6 団体は、共同で、2023 年度を啓発強化元年とし、「NO！スポハラ」活動を通じて、だれもが安全・安心にスポーツを楽しめる社会を目指します。

スポハラ(スポーツ・ハラスメント)とは？

スポーツの現場において、「暴力」、「暴言」、「ハラスメント」、「差別」など「安全・安心にスポーツを楽しむことを害する行為」のことです。※

指導者と指導を受ける者との関係のみならず、スポーツの現場における関係者の誰によっても、また誰に対してであっても、「スポハラ」は起こりえます。

※子ども向けの説明

「スポーツをする人、みる人、ささえる人に対して、嫌(いや)なことをすることで、安全・安心にスポーツを楽しむことができないようにすること」です。

「NO！スポハラ」活動 主催6団体による活動開始に向けた決意



**プレーヤーズセンタードの考え方のもと、
「スポハラ」のないスポーツ界を実現します。**

日本スポーツ協会 会長 伊藤 雅俊



Japanese
Olympic
Committee

**スポーツの価値を守るためにも
「スポハラ」のないスポーツ界を目指します。**

日本オリンピック委員会 会長 山下泰裕



アフロスポーツ/JOC



**スポハラや差別・偏見のない、誰もが
スポーツを楽しめる活力ある共生社会を実現します。**

日本パラスポーツ協会 会長 森 和之



**「NO！スポハラ」の体育・スポーツ活動を通して、
笑顔溢れる安全・安心を築きます。**

日本中学校体育連盟 会長 平井 邦明



**学校教育の一環として行われる運動部活動から
「スポハラ」の根絶を目指します。**

全国高等学校体育連盟 会長 岡田 正治



UNIVAS

**学生アスリートが生き生きとして、
スポーツに取り組める環境の実現を目指します。**

大学スポーツ協会 会長 福原 紀彦



スポーツ庁長官からのメッセージ



スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

**あらゆる暴力・不適切指導等の根絶に向けて
スポーツ界の取組を支援していきます。**

スポーツ庁 長官 室伏 広治



日本スポーツ振興センター理事長からのメッセージ

JAPAN SPORT
COUNCIL

日本スポーツ振興センター

**インテグリティを確保し、安心・安全に
スポーツを楽しめる社会の実現を支援します。**

日本スポーツ振興センター 理事長 芦立 訓



※メッセージの詳細については、特設 WEB サイト:<https://www.japan-sports.or.jp/spohara/>をご覧ください。

「NO！スポハラ」活動とは？

「スポハラ」が起きないことを目指すだけでなく、「誰もが安全・安心にスポーツを楽しめる社会を作る」ための活動です。そのために、スポーツに関わるみんなが、「スポハラ」はあってはならないもの、ダメなもの「NO！スポハラ」という価値観をもてるようになることを目指します。

根絶宣言から10年が経過した2023年度を「NO！スポハラ活動」を開始する年と位置付け、「スポハラ」について関心をもってもらう、知ってもらう、学んでもらう、そして、防止に向けた行動ができるようになってもらうために必要な情報発信やイベントを行います。

<2023年度の主な活動概要>

●期間

2023年4月25日～2024年3月31日(予定)

●内容

➢特設 Web サイト公開➤

<https://www.japan-sports.or.jp/spohara/>

※イベント等の詳細は特設 Web サイトに順次公開いたします。また、JSPO の SNS 公式 twitter (@JSPO_official)からお知らせいたします。



➤ 専門家による情報発信

「スポハラ」にカツ(勝！／喝！／克！)！！

～スポーツ指導の新常識～

「スポハラ」から子どもたち・プレーヤーを守るために、保護者や指導者の方に知ってほしい情報を各専門領域からの視点で発信いたします。



➤ ワークショップの開催(開催予定:6月・8月・10月)

「スポハラ」を「知る」「考える」「行動する」の3つのステップで各専門領域の専門家や元トップアスリートと一緒に、より広く深く「スポハラ」について学ぶワークショップを開催いたします。

➤ 各スポーツ団体の取り組みの紹介

JSPO はじめスポーツ団体における「**NO！スポハラ**」活動に関連した取り組みを特設 Web サイトで紹介します。指導者の方向けの研修会をはじめ、一般の方にも参加いただける研修会等も随時公開していきます。その他、アスリートによるリレーメッセージや SNS の投稿キャンペーン(ハッシュタグ「#no スポハラ」)などの開催も予定しております。



「**NO！スポハラ**」活動が目指す社会

～保護者の方をはじめとするスポーツに関わる全員に向けたメッセージ～

スポーツ界ではこれまで、主に指導者側にアプローチを行い、“スポーツに暴力、暴言、ハラスメントなどあってはならないもの”という考え方を浸透させてきました。

多くの指導者はこの考えを理解し、『だれもが、安全・安心にスポーツを楽しめる環境』づくりに取り組んでいます。しかしながら、まだスポーツ界における暴力、暴言、ハラスメントなどの不適切行為がなくなるまでには至っておりません。

では、このような不適切行為をなくすことに取り組むのは指導者だけでしょうか？この問題に対し、スポーツに関わる全員が向き合い、考える必要があるのではないのでしょうか。例えば、保護者から指導者への不適切な行為、子ども同士、保護者間での不適切な行為も防ぐ必要があります。

スポーツ界から暴力、暴言、ハラスメントなどの不適切行為を排除し、**だれもが安全・安心にスポーツを楽しめる社会**の実現にみんなで取り組みませんか。スポーツにおける暴力、暴言、ハラスメントなどの不適切行為を総称し「スポハラ」と呼び、“スポーツ界に「スポハラ」なんていない！”、“まだ「スポハラ」なんてやっているの？”という価値観を広げ、スポーツ界からスポハラを追い出しましょう。

その合言葉は、『**NO！スポハラ**』です。

<本件に関するお問い合わせ先>

公益財団法人日本スポーツ協会

インテグリティ推進部インテグリティ推進課 E-mail cleansport@japan-sports.or.jp (担当: 品治^{ほんじ}、浦)

ブランド戦略部広報情報システム課 E-mail jspo1@japan-sports.or.jp

※当協会ではテレワーク勤務を併用しております。

ご不便をおかけいたしますが連絡は上記 E-mail 宛にお願いいたします。

◆JSPO(公益財団法人日本スポーツ協会)について

JSPO は、1911 年 7 月に「国民スポーツの振興」と「国際競技力の向上」を目的に、大日本体育協会として創立。日本体育協会を経て、2018 年 4 月 1 日、現在の名称となりました。

JSPO では、国民体育大会や日本スポーツマスターズなど各世代を網羅したスポーツ大会の開催、スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブなどスポーツをする場の創出、スポーツの楽しみをサポートするスポーツ指導者の育成、最新の医・科学に根差したスポーツの推進など、誰もが自発的にスポーツを「する」「みる」「ささえる」ための幅広い事業を展開しています。また、わが国スポーツの統一組織として、国や 60 を超える競技団体、47 都道府県スポーツ・体育協会など、様々なスポーツ関連団体・組織や個人と連携しています。

- ▶ ホームページ <https://www.japan-sports.or.jp/>
- ▶ 事業概要パンフレット <https://www.japan-sports.or.jp/about/tabid57.html#09> (通読約 15 分)



JSPO スポーツと、望む未来へ。

We support sport in Japan

JSPO OFFICIAL PARTNER



大塚製薬



三井住友海上
MS&AD INSURANCE GROUP

LOTTE



日本文化出版



時事通信



令和5(2023)年度国体（国スポ）会議日程（予定）

資料No.19-2

期日	開始時刻	会場	会議名	出席者					特記事項
				国体委員会			競技運営 部会委員	都道府県 体ス協	
				正副委員長	検小委	委員			
R5(2023)年 4月									4/19(水)14時 第1回理事会
5月19日(金)	14時	大会議室 リモート	第1回国スポ検討小委員会	○	○				
5月26日(金)	14時	大会議室 リモート	国民スポーツ大会委員会 競技運営部会	○			○		
6月6日(火)	14時	大会議室 リモート	第1回国民スポーツ大会委員会	○	○	○			6/ 8(木)15時 第2回理事会 6/23(金)14時 定時評議員会 6/23(金)15時30分 臨時理事会
7月26日(水)	14時	大会議室 リモート	第2回国スポ検討小委員会	○	○				7/20(木)14時 第3回理事会(開催地決定・内定) 7/22(土)インターハイ開会式(北海道)
8月24日(木)	14時	大会議室 リモート	第2回国民スポーツ大会委員会	○	○	○			
9月									【特別国体・本大会】鹿児島県 会期前 9/16(土)～24(日)
10月									【特別国体・本大会】鹿児島県 本会期10/7(土)～17(火)
11月17日(金)	14時	大会議室 リモート	第3回国スポ検討小委員会	○	○				11/9(木)14時 第4回理事会
12月8日(金)	14時	大会議室 リモート	第3回国民スポーツ大会委員会	○	○	○			
R6(2024)年 1月19日(金)	14時	大会議室 リモート	第4回国スポ検討小委員会	○	○				1/18(木)15時 第5回理事会 【第78回国スポ・冬季大会】 スケート・アイスホッケー(北海道・苫小牧市) 1/27(土)～2/3(土)
2月									【第78回国スポ・冬季大会】 スキー(山形県)2/21(水)～24(土)
3月5日(火)	14時	大会議室 リモート	第4回国民スポーツ大会委員会	○	○	○			3/7(木)14時 第6回理事会
3月15日(金)	14時 10時	大会議室 リモート	都道府県体育・スポーツ協会 国スポ連絡会議	○				○	

※リモート会議併用とする。

※国スポ検討小委員会および国民スポーツ大会委員会は臨時で開催することもある。